



力が付いている問題

◆数の集合と四則計算の可能性について理解している

1 正答率 65.5% (62.2%) a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ問題

◆資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる

8 (1) 正答率 62.6% (57.9%) 読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める問題

課題が見られた問題

◆証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している

7 (1) 正答率 74.3% (75.8%) 無回答率 6.8% (5.2%) 証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題

◆事柄が成り立つ理由を説明することができる

9 (2) 正答率 57.4% (59.7%) 無回答率 19.3% (17.8%)

連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する問題

- * 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を数学的に説明する力に課題が見られました。
- * 図形領域の問題は、4問すべてで全国を下回っていました。
- * 無回答率が全国より高い問題が16問中10問ありました。



数学に関する生徒質問紙の結果に注目してみましょう	県	全国	差
○数学の勉強は大切だと思う	85.8%	84.2%	+1.6
○数学で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	79.3%	76.2%	+3.1
△数学の授業はよく分かる	71.2%	73.9%	-2.7
△解答を言葉や数、式を使って説明する問題で、最後まで解答を書こうと努力した	60.5%	60.8%	-0.3

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、授業改善に取り組みましょう

◆観点別に見ると、図形領域を除く、知識及び技能の問題は、すべて全国平均以上でした。

⇒基本的な知識及び技能の定着はおおむね良好な状況。



<ポイント> 補充的な学習の場面を設定したり、個に応じた支援を意識したりして授業を進めている成果と考えられます。新学習指導要領で求められている知識や技能の質の向上に向けて、日常の事象や既習事項を発展的に考えるときに、その解決方法として使える知識や技能を身に付けさせていくようにしましょう。

⇒平成31年度全国学力・学習状況調査報告書(中学校数学) P21, 24, 29

◆証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を指摘したり、根拠を明確にして説明したりすることに課題がありました。

⇒数学的な見方や考え方を働かせて思考する「深い学び」の充実が求められる。



<ポイント> 数学的な推論によって問題を解決・説明する経験が不足していることが要因の1つと考えられます。資料の傾向を捉えて考察・判断した理由を数学的な表現を用いて説明する場面や、事柄が成り立つ理由について根拠を明確にして説明する場面を授業で取り入れましょう。

⇒平成31年度【中学校】授業アイデア例 P11~14

◆無回答率が全国に比べ高い状況にありました。

⇒粘り強く問題解決に取り組む態度の育成に向けて、「主体的な学び」の充実が求められる。



<ポイント> 「主体的な学び」の充実に向けて、ある事象から問題を見いだしたり、問題の解決に向けて見通しを立てたり、問題を解決した後はその解決方法について振り返ったりする活動を適宜取り入れましょう。その際、数や図形に着目する等の数学的な見方や考え方を働かせる必要のある場面設定をしているかが重要です。

⇒平成31年度全国学力・学習状況調査報告書(中学校数学) P52~55

全国学力・学習状況調査の問題は、学習指導要領の趣旨や内容が問題の形で示されています。日々の授業が、示された問題を解決する力の育成につながっているか考えながら、学習指導要領に示された算数・数学の問題発見・解決の過程を意識した授業改善を進めましょう。



<具体的な授業改善例について> *以下の資料を参考にしてください。※学校教育支援サイトにもデータを掲載しています。

①全国学力・学習状況調査報告書 ②授業アイデア例(国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/index.html>)